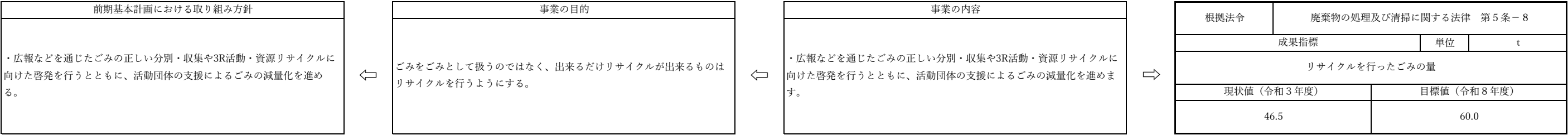


第 4 次久山町総合計画 前期基本計画対応 実施計画					分野		暮らし		政策	住みよい生活環境を未来につなぐ	施策	②ごみ処理の適正な処理と衛生管理		
実施年度	令和	5	年度	予算科目	会計	款	項	目	継続	事業名	リサイクル活動推進事業	担当課	町民生活課	
					1	4	3	1				担当者	木下 雅博	

1. 事業概要



2. 実施内容（実績）

年度	令和4年度				令和5年度				令和6年度				令和7年度				令和8年度							
Plan (計画)	ごみとして捨てるのではなく、リサイクルできるものを住民に周知を図る。広報等で知らせる。				コロナ禍で少なかった、資源物回収の再実施を増やしていく。ごみに関して適正に捨ててもらう様に指導するとともに、広報等でリサイクルの重要性を知らせていく。				リサイクル推進員の協力のもと適正なリサイクルを推進する。 資源物集団回収の実施回数を増加させる。															
Do (実行)	毎月1回の資源物収集に関し、リサイクル推進員に指導をしてもらい適正にリサイクルを進める。資源物集団回収の実施団体に対して、奨励金を交付しごみ減量化を図る。				毎月1回の資源物収集に関し、リサイクル推進員に指導をしてもらい適正にリサイクルを進める。資源物集団回収の実施団体に対して、奨励金を交付しごみ減量化を図る。																			
活動実績	登録団体による資源物回収実施回数				登録団体による資源物回収実施回数				登録団体による資源物回収実施回数															
	単位		目標値		実績値		単位		目標値		実績値		単位		目標値		実績値		単位		目標値		実績値	
	回		6		1		回		6		3		回		6									
	単位		目標値		実績値		単位		目標値		実績値		単位		目標値		実績値		単位		目標値		実績値	
成果指標	リサイクルを行ったごみの量				リサイクルを行ったごみの量				リサイクルを行ったごみの量				リサイクルを行ったごみの量				リサイクルを行ったごみの量							
	単位		目標値		実績値		単位		目標値		実績値		単位		目標値		実績値		単位		目標値		実績値	
	t		60		40		t		60		39		t		60				t		60			
Check (評価)	B	新型コロナウイルス感染症の影響により小学校や中学校、育成会についての資源物集団回収が実施出来なかった。通常の資源物収集は実施ができた。			B	両小学校、幼稚園合同の資源物回収が天候の影響により中止となったが一部地域および中学校での集団回収が実施された。																		
Action (改善)	リサイクルの推進は、地球環境を考えたときにとても重要で効果的な事業である。新型コロナウイルス感染症の影響で実施できていなかった各種団体での資源回収も、再開されると思われることから、現状のまま事業を継続する。				資源物回収や集団回収などリサイクルを推進する取り組みに対しては、周知方法を検討し効果的なものとしていく。																			
事業費	予算		決算		予算		決算		予算		決算		予算		決算		予算		決算					
直接事業費（歳出）	360	(千円)	378	(千円)	678	(千円)	501	(千円)	678	(千円)		(千円)		(千円)		(千円)		(千円)		(千円)				
事業費財源	360		378		678		501		678		0		0		0		0		0					
	特定																							
	地方債																							
	一般	360	378		678	501	678																	
人件費	47.388		40.332		37.71		81.445		41.928		0		0		0		0		0					
	人員数	0.006	0.006		0.006	0.013	6.988		0.006															
	人件費単価	7.898	6.722		6,285	6,265	6,988		6,988				7,768				7,768							
事業費合計	360		418		716		582		720		0		0		0		0		0					
町民一人あたりの負担額	38.944	円	45.254	円	76.859	円	62.548	円	77.312	円	0.000	円	0.000	円	0.000	円	0.000	円	0.000	円				

令和5年度事務事業評価シート

事業番号	事業名
暮らし3-2-101	リサイクル活動推進事業

PLAN(計画)⇒DO(実施)については総合計画進捗管理票にて記載

CHECK(評価)

No.1

自己評価	評価者	木下 雅博	5	大	←	小	1	↓
1. そもそも必要な事業か？								
町民のニーズが高い。ニーズが増加傾向である。	5	A						
緊急性が高く、即時に実施しなければならない。	5							
実施しなければ町民生活に及ぼす影響が大きい。	5							
町民生活や町のイメージアップの向上に寄与する。	5							
評価理由 限りある資源を有効に活用するリサイクルの取り組みの重要性は普遍的であり、町のイメージに影響があると考えている。								
2. 町が実施する必要があるか？								
町が実施主体となることが法令等により定められている。	○	A						
公権力行使、あるいは政策判断を伴い、民間等では実施できない。	5							
民間等や国・県で実施するよりも効果的である。	5							
民間等あるいは国や県で類似事業を実施していない。	5							
評価理由 廃掃法第5条の8の規定に基づき本町ではリサイクル推進員を任命しており、推進員、町民が協力し当該事業を推進している。								
3. 実施内容は適切か？								
①有効性								
久山町総合計画基本計画の将来計画を実現するために有効な事業である。	4	A						
事業の手法・活動内容は適切である。	5							
事業の成果達成状況や進捗状況は順調である。	4							
評価理由 資源物地域、集団回収を実施することで、ごみの減量化を図ることができる。								
②効率性								
事業費に見合った成果を上げている。	5	A						
外部委託等(指定管理者を含む)による効率化が図られている。	5							
実施方法の工夫により効果を維持しながらコスト削減を図っている。	5							
評価理由 実施団体には奨励金を交付しているが、本来ごみとして処分する費用と比較すると処分費の方が安価であるが、リサイクルを推進するためには必要である。実施団体は主に子供と一緒に活動をしていただいているため、環境教育の面からも事業は妥当と考え								
③公平性・透明性								
受益者負担について課題はない。(または、受益者負担を求めることが適当でない。)	5	A						
事業費に占める一般財源の額は妥当である。	5							
ホームページや広報を活用し、積極的に情報を公開している。	5							
評価理由 町のリサイクル回収に関しては、現在透明びん、茶色びん、ペットボトル、ダンボールしか回収できていない。子どもたちが集めた資源物は回収業者が正確に数量を報告しており、それに応じて金額を町から支払っている。								

今後の方向性	見直しの具体的内容
□ A重点化 ■ B現状のまま維持 □ C見直し □ D廃止 □ E事業完了	□ 実施方法の工夫 ■ 事業の効率化 □ 受益者負担の適正化 □ 事業縮小 □ その他

自己評価の理由(今後の方向性等について具体的に)

資源物集団回収が通常通りできるようになったものの、天候の理由から一部が中止となり予想よりもリサイクル量が少なかった。引き続き事業を継続し、回収の機会を住民に周知することで効果を高めていきたい。

CHECK(評価)

No.2

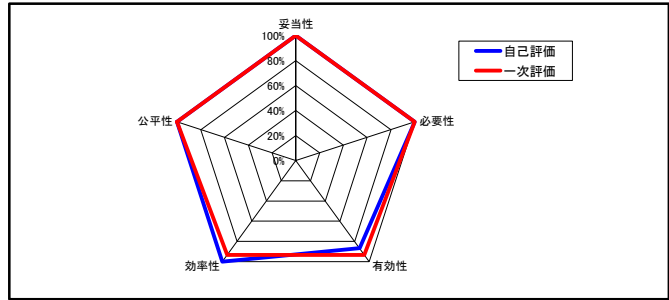
一次評価	評価者	阿部 哲也	5	大	←	小	1	↓
1. そもそも必要な事業か？								
町民のニーズが高い。ニーズが増加傾向である。	5	A						
緊急性が高く、即時に実施しなければならない。	5							
実施しなければ町民生活に及ぼす影響が大きい。	5							
町民生活や町のイメージアップの向上に寄与する。	5							
評価理由 廃棄物処理は市町村で処理することが義務づけられている。また、法律に於ける国民の責務でリサイクルに協力するように記載されている。								
2. 町が実施する必要があるか？								
町が実施主体となることが法令等により定められている。	○	A						
公権力行使、あるいは政策判断を伴い、民間等では実施できない。	5							
民間等や国・県で実施するよりも効果的である。	5							
民間等あるいは国や県で類似事業を実施していない。	5							
評価理由 法律に於ける国民の責務でリサイクルに協力するように記載されており、本町ではリサイクル推進員を任命し、リサイクル活動の推進に協力していただいている。								
3. 実施内容は適切か？								
①有効性								
久山町総合計画基本計画の将来計画を実現するために有効な事業である。	4	A						
事業の手法・活動内容は適切である。	5							
事業の成果達成状況や進捗状況は順調である。	5							
評価理由 リサイクルはごみの減量化を図るうえで必要であり、地球温暖化対策等に対しても有効な事業である。								
②効率性								
事業費に見合った成果を上げている。	5	A						
外部委託等(指定管理者を含む)による効率化が図られている。	5							
実施方法の工夫により効果を維持しながらコスト削減を図っている。	4							
評価理由 ごみとして処分する費用とリサイクル実施団体に交付している奨励金を比較すると処分費の方が安価であるため、コストの削減を図ることは難しいがリサイクル推進には必要であると考える。								
③公平性・透明性								
受益者負担について課題はない。(または、受益者負担を求めることが適当でない。)	5	A						
事業費に占める一般財源の額は妥当である。	5							
ホームページや広報を活用し、積極的に情報を公開している。	5							
評価理由 資源物回収登録団体に奨励金を支出し、古紙、古布のリサイクルをしていただいている。また、広報などでごみの捨て方などを周知している。								

今後の方向性	見直しの具体的内容
□ A重点化 ■ B現状のまま維持 □ C見直し □ D廃止 □ E事業完了	□ 実施方法の工夫 ■ 事業の効率化 □ 受益者負担の適正化 □ 事業縮小 □ その他

一次評価の理由(今後の方向性等について具体的に)

資源物のリサイクルは、両小学校、幼稚園、中学校、育成会など資源物回収実施団体による古紙、古布の回収と毎月1回資源ごみ分別収集ステーションに無色のビン等を回収する方法で行っている。また毎月1回の資源収集ではリサイクル推進員のおかげで、適正に収集が出来ている。今後もリサイクル事業は町民の協力のもと推進していくべきものと考える。

自己評価・一次評価の傾向



ACTION(評価・改善)

No.3

二次評価	評価者	井上 英貴
□ A以下の点について、良好と評価し、コストを拡充し更なる事業推進を図る。		
■ B計画どおり、現状のまま事業を継続する。 リサイクルの推進は、地球環境を考えたときにとても重要で効果的な事業である。新型コロナウイルス感染症の影響で実施できていなかった各種団体での資源回収も、再開されていることから、現状のまま事業を継続する。		
□ C事業継続と判断するが、以下の課題を解決するための計画の見直しを行う。		
□ D事業廃止と判断し、外部評価委員会に諮ることとする。		
□ E事業の目的を達成し、事業完了したと判断する。		
□ 一次評価は以下の点で問題がある又は判断されるため、一次評価の見直しを求める。		
□ 評価終了 □ 外部評価へ		

ACTION(評価・改善)

No.4

外部評価	
今後の方向性	A・B＝目標達成できたもの C・D＝目標達成できていないもの □ A重点化(計画どおり進んでおり、コストを拡充し、更なる事業推進を図る) ■ B現状維持(計画どおり進んでおり、現状のまま事業を進める) □ C見直し □ D廃止 □ E完了
	C見直しの具体的内容 ■ 実施方法の工夫 ■ 事業の効率化 ■ 受益者負担の適正化 ■ 事業縮小 ■ その他
評価	C
	外部評価委員の意見 ・本事業は、町民の環境への意識向上や主体的な活動の促進など、多面的な効果を生み出す事業であり、その重要性や意義、成果については評価できる。一方、それについて町民の理解は及んでいない。事業推進のためには、情報発信や啓発活動などによる、協働を促進する取り組みを他部署とも連携しながら実施する必要がある。 ・町民一人当たりのごみの量が全国的に見て低い数値というのはいすばらしいので、見える化した方が良い。その上で、更なる減量化、また、脱炭素の取り組みとしてのプラリサイクルの早急な推進を検討してほしい。 ・リサイクル活動団体の人材不足などの課題もあることから、回収方法の見直しや団体の支援など、各団体、地域コミュニティを管轄する部署や各団体、地域コミュニティと連携し、事業を推進する必要がある。
経営者会議	経営者会議の評価
今後の方向性	A・B＝目標達成できたもの C・D＝目標達成できていないもの □ A重点化(計画どおり進んでおり、コストを拡充し、更なる事業推進を図る) ■ B現状維持(計画どおり進んでおり、現状のまま事業を進める) □ C見直し □ D廃止 □ E完了
	C見直しの具体的内容 ■ 実施方法の工夫 ■ 事業の効率化 ■ 受益者負担の適正化 ■ 事業縮小 ■ その他
評価	C
	経営者会議の評価 本町は「カーボンネガティブ&ネイチャーポジティブ」を宣言し、「持続可能な」脱炭素社会の実現に向けて取り組みを進めている。本事業は、その実現に向けて重要であり、リサイクル意識の向上だけでなく、本町の自然環境や人と人のつながりなどの「暮らしの豊かさ」を実感できる情報発信を実施する。 リサイクル量を増やすためには、プラスチック資源の分別収集・再商品化を進める必要があるため、令和8年度以降の回収方法変更を目指し、本町のごみの搬入先である福岡市と同時期での開始ができるよう努めている。 集団回収は、ごみ減量や団体活動助成の目的で行っているが、コロナ禍等による会員減少もあり活動団体が減少している。これは、まちづくり全体に関わる課題でもあることから、第4次総合計画にも掲げている「多様な人や団体の交流の場・機会の充実を通して人と人とのつながりを創出する」ことで団体の活性化にもつなげたい。
令和7年度予算要求事項(今後の取り組み)	
令和7年度は、現状の実施方法や予算は維持し、年度当初に、広報やホームページ等での事業のPRに加え、PTAや子ども会育成会に対して、事業の周知活動を実施する。また、令和8年度からの実施を目標として、プラスチックごみを含んで、新たな分別区分等を検討する。プラスチックごみに関しては、福岡市との連携・情報共有を継続する。	